

要 望 書

野 田 市 長 鈴 木 有

千 葉 県 議 会 議 員 木 名 瀬 訓 光

野 田 市 議 会 議 長 平 井 正 一

野田商工会議所会頭 茂 木 佐 平 治

野田市関宿商工会会長 富 澤 昇

野田市工業団地連絡会会長 大 川 勝 士

東武野田線（アーバンパークライン）の6両編成維持等に係る要望書

1 東武野田線（アーバンパークライン）の車両編成について、鉄道利用者の利便性等に資するよう、現行の運行頻度とともに6両編成長を維持することを要望いたします。

2 鉄道利用者が大きな影響を受ける運行サービスの変更等にあたっては、早急な情報提供とともに住民や沿線自治体と丁寧な調整、協議を行い、理解、協力を得ることを要望いたします。

千葉・埼玉県内の鉄道の利便性向上等につきまして、平素から格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

また、日頃から沿線自治体の活動につきましては、多大なるご尽力を賜り、改めて感謝申し上げます。

さて、東武野田線は、東京都心から延びる放射線状の鉄道路線に対し、千葉県と埼玉県の主要都市をそれぞれ結ぶ環状の鉄道路線として、地域の活性化等に非常に重要な路線となっています。

これまで、逆井～六実間が複線化され、令和3年度末には、東武野田線（野田市）連続立体交差事業において、清水公園～梅郷間の高架区間の使用が開始されました。

また、春日部駅付近連続立体交差事業については、都市計画決定に続き、東武鉄道伊勢崎線・野田線連続立体交差事業の事業認可がされています。

このように、東武野田線の輸送力増強や利便性の向上が図られる中、

また、これまでも沿線の自治体が連携して、誰もが使いやすい鉄道となるよう、さらなる施設の整備・充実を強く要望する中、先般、貴社より、2024 年度以降から順次同路線の列車の 1 編成あたりの両数を 6 両から 5 両に変更する旨のプレスリリースがありましたことは、寝耳に水であり、驚きと落胆を禁じ得ません。

持続可能なまちづくりの実現に向けて、沿線地域が関係機関と連携し、駅を中心とするまちづくりとそれにとまなう居住人口、交流人口の拡大を図る必要があります。

そのためには、東武野田線関係の現行のサービス水準を維持しつつ、さらに、利便性、快適性を高めることが求められています。

また、少子高齢化が一層進む中、高齢者や障がいのある方、乳幼児を連れた方等が外出する際の移動手段として、公共交通機関として鉄道の果たす役割はますます重要かつ大きくなると考えています。

誰もが安全で安心して、また快適に鉄道を利用するためには、着席できる十分な座席数の確保はもとより、車椅子やベビーカーのスペースの拡大ニーズに対応することなどが、今後の鉄道輸送サービスに一層求められると思料しています。

環境と誰にでも優しい、安全で安心できる鉄道の実現に向けて、通勤通学型の鉄道車両からさらに踏み込んで、ユニバーサルな視点から編成した鉄道車両を導入することにより、環境とともにさらに時代を先取りした形での鉄道運行モデルが構築でき、鉄道利用者の増加という好循環にもつながるものと期待されます。

貴社におかれましては、以上の地域の状況をご賢察いただき、東武野田線（アーバンパークライン）の運行頻度及び 6 両編成長維持に関して、特段のご配慮のほど、よろしくお願い申し上げます。

令和 4 年 5 月 3 0 日

東武鉄道株式会社

代表取締役社長 根 津 嘉 澄 様